

円蔵自治会だより

合 意 言 葉
みんなWA (輪・話・和)
になるなかよし円蔵

毎日の
あいさつ運動
展開中

平成29年
5月1日
(第62号)

発行責任者
円蔵自治会 小室正明
TEL・FAX 82-9095

4月定例組長会議報告 (主なもの)

1. 組長業務・依頼事項の件
2. 各種集金・防犯灯の件
3. 広報・回覧配布の件
4. 自治会運動会飲み物の件



5月の予定 (主なもの)

7日(日)	5月組長会議	10:00
12日(金)	5月事務局会議①	9:00
20日(土)	円蔵自治会運動会準備	17:00
21日(日)	円蔵自治会運動会(予備28)	7:30
25日(木)	円蔵サロン(31)	9:00
27日(土)	5月事務局会議②	9:00
28日(日)	美化キャンペーン茅ヶ崎	6:50

「第31回円蔵サロン」のご案内

1. 期 日 5月25日(木)
2. 時 間 午前9時から12時まで
3. 場 所 円蔵自治会館(1・2階)
4. 対 象 老若男女(誰でも)

- ①事前申込は不要です。直接、来館ください。
- ②お茶等は準備します。参加費1人100円。
- ③お菓子・その他お好みは、各自でご用意を。

景能祭(かげよしさい)開催(氏子会主催)

景能祭(かげよしさい)開催(氏子会主催)
3/26

*平安時代末期(今から840年前)・源頼朝(みなもと・よりとも)の側近であった懐島景能(ふところじま・かげよし)は、円蔵神明大神宮を創建し、懐島郷(円蔵・西久保浜之郷・矢畑等)を開拓した領主であります。

*その遺徳を偲ぶ「景能祭」(氏子会主催)が、服部茅ヶ崎市長をはじめ、多くの来賓役員関係者出席のもと盛大に開催されました。

*先ず奉納されたのが、「円蔵祭囃子」であります。景能公が、村人の娯楽のために始めたとされるこのお囃子は、今では「茅ヶ崎市重要文化財」に指定(第1号)されている円蔵が誇る伝統芸能でもあります。大切に伝承育成されていることに感謝です。

環境指導員紹介(一部留任)と主な担当地区

担当地区	氏 名	担当地区	氏 名
上町1組	笠原 正	辻 町	上田智雄
上町2組	久米田達志	鶴田1組	黒田昭雄
陽ざし野	山下明美	鶴田2組	藤井博允
下 町	大館二三夫	鶴田3組	本間麻理子
南 町	堤 秀彦	鶴田4組	福永哲雄

*円蔵地区内に現在、46箇所「折りたたみゴミ集積かご」が設置されています。上記の方には、環境相談・指導等担当させていただきますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

*基本的には、一人ひとりのルール・マナーが大切です。仲良く・気持ち良い隣近所を!

平成29年度・円蔵自治会役員(事務局)・組長名簿

役 員	氏 名	電 話	組 長	氏 名	電 話
会 長	小室正明	82-9095	上町1組	伊藤愛美	33-5754
副 会 長	森谷義明	52-1400	上町2組	野中 実	83-8963
副 会 長	小山卓郎	86-1948	陽ざし野	吉川昭子	57-6920
副 会 長	佐藤利次	53-2033	下 町	上原重雄	85-1677
事務局長	小室富雄	51-9764	南町1組	小松 元	58-9420
事務局員	鈴木進一	86-2545	南町2組	川下朝好	86-7730
事務局員	郡山麗子	82-2146	辻 町	末松 誠	84-8069
事務局員	南條春雄	86-6330	鶴田1組	鈴木 勝	26-1478
事務局員	堀内あゆみ	83-2983	鶴田2組	石田 剛	52-3478
事務局員	坪倉宣久	52-8389	鶴田3組	古屋重行	53-2734
監 事	相田敏彦	51-7792	鶴田4組	藤田浩司	53-3950
監 事	酒井勢津子	82-4507			

*4/2(日)の円蔵自治会総会において、上記役員はじめ、事業予算等が承認されました。事務局一同、目的達成のため頑張ります。関係皆様のご支援が「力」です。よろしくお願いたします!!

*なお、拡大・継続事業の主なものは、次のとおりです。

- ①拡大: 円蔵文化祭(円蔵自慢) ③継続: 自主防災訓練(安否確認)
- ②継続: ゴミ集積かご設置推進 ④継続: 円蔵サロン(開催4木曜日)

命守った地域の絆

連鎖地震

熊本地震で被災した東海大阿蘇キャンパス(熊本県南阿蘇村)の農学部生による報告会が24日、大和市であった。紙一重で命をつないだ後、生き埋めになった仲間を救助した場面などを振り返り、地域のつながりや近隣で助け合う大切さを強調。ボランティア活動や備しを通じて取り組んでいる復興支援への協力も呼び掛けた。(横辺 沙)

「明日が来るのは当たり前ではない。4年の圓蔵沙和さん(22)は、かみしめるように言った。目の前の学生アパルトは昨年4月16日未明の本震で1階がつぶれ、6人が生き埋めに。自らは、ゆがんで開かなくなった下宿のドアに体当たりして、わずかな隙間から外へ逃げ出した。

熊本地震の直中で地元消防が駆けつけられ、熊大生仲間や大和近隣住民の救助を開始。車のライトを頼りに助け出した。1人が犠牲になった。約800人の南阿蘇村には、約800人の熊大生が居る。「誰かどこに住んでいても、熊大生で合えばいい」

「所在分かっていった」

被災の東海大生 大和で報告会

熊本地震の体験を報告後、神奈川の大学生と意見交換する東海大生

熊大生と大和市民の交流促進を目的とした熊大生文化創造拠点の仮設

熊本地震で被災した東海大阿蘇キャンパス(熊本県南阿蘇村)の農学部生による報告会が24日、大和市であった。紙一重で命をつないだ後、生き埋めになった仲間を救助した場面などを振り返り、地域のつながりや近隣で助け合う大切さを強調。ボランティア活動や備しを通じて取り組んでいる復興支援への協力も呼び掛けた。(横辺 沙)

編集後記

*縮小コピーでゴメンナサイ。熊本地震から1年。「命守った地域の絆」「所在分かっていった」を、理解していただきたかったです。